さしぶり だより

62年 1月 1日
第 4 号
鳥 取 県
栽培漁業協会

新春のごあいさつ

佐竹 嘉秦

明けまして，おめでとうございます。 昨年は，春先きの低水温が影響したとはいえ，全般に資源の枯渇現象は著しく，加えて円高により，大量の輸入水産物が搬入されて，魚価の足を引っ張り，漁業経営は厳しさを増した年でした。 これの対応策としては，至極当たり前で，且つ漁業者各位も充分御承知の事ですが，資源を増す努力と漁獲努力の低減並びに漁獲物の有利販売を推進して行く以外方途は考えられません。このことは理屈ではなく行動に移すことが肝心です。 今年こそ，種苗放流・漁場管理・適正漁獲・有利販売をモットーとして，待ちの姿勢から一緒になって行動を起こす年にしたいものだとねんじます。

アワビ増殖実践グループ結成

（赤碕・泊・青谷・網代漁協）

潜水等により磯場を利用している漁業者がアワビの増殖実践グループを結成してから1年近くなります。 この人達は赤碕・泊・青谷・網代漁協に属する人達で，全部で5つのグループがあります。

このグループの目的は，現在使用している漁場を種苗放流をはじめとして自らが管理し，より効率的な生産をあげてアワビによる増収を計るというものです。 活動内容は，種苗の放流，餌料の管理，

食害生物の駆除，密漁防止等で，アワビの増殖にとってはどれも大切で，なかなか難しい問題です。　１０月３０日栽培漁業センターで５つのグループが集り，１回目の活動報告，検討会が開かれました。　第１回ということもあり，意見交換は多少少なかったように思われますが，２回目以降は各漁協持ち回りの検討会ということになり今後，真剣かつ積極的な意見交換の場として進めていってほしいと期待しております。

ワカメ養殖本格化

昭和57年から２，３ケ所の漁協が，栽培漁業センターで採苗育成したワカメ種糸を使用して，海面でのワカメ養殖を行ってきました。

波浪の高い冬期のことなので，施設の損壊などが心配されましたが，年々技術的にも進歩が見られまずまずの成果をあげているようです。　漁船漁業不振の中で，冬場の副収入を少しでも得ようと取り組む漁協，グループが増え現在９組合が行っています。　今後，収益を少しでもあげていくための問題点として，センター産種苗の早期化，管理収穫技術の向上，有利な加工販売等色々ありますが，グループの技術検討会議などでお互い１つ１つ克服して行き，ワカメ養殖による収入を確実なものにしていってもらいたいと思います。

オニオコゼの種苗生産

オニオコゼは肉質が良く美味であるので，高級魚として取り引きされています。　ところで，これまで親魚は餌付けが難しく，オニオコゼの飼育は困難とされてきました。　栽培漁業センターでは昭和59年から親魚の養成をしてきましたが，昨年の７月，自然産卵により大量の受精卵を採集することに成功しました。　７月末に卵だったものが，現在全長５～６Ｃｍの稚魚となり，約3500尾を飼育しています。　今年早々に種苗の一部の放流を予定していますが，移動も少ないと思われ，栽培漁業の有望種と考えられます。

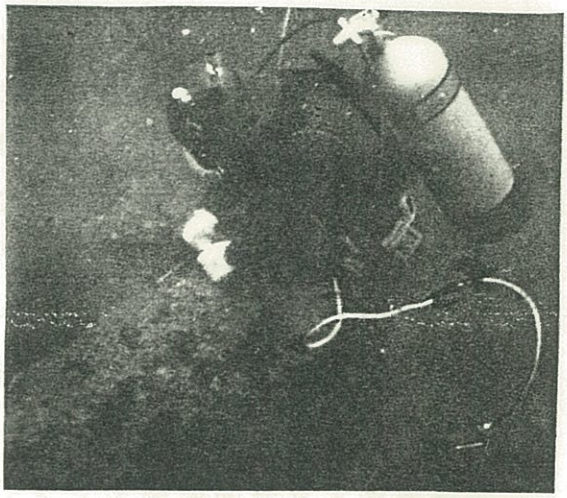
なぎさ音

酒津漁業協同組合　上根則幸（２７歳）

私は酒津で８年間漁師をやっています。　以前は栽培漁業という言葉に対して興味はなかったのですが，最近は魚が獲れなくなり，今後の見通しもけっして明るいものではないように思われ，これからの漁業には栽培漁業が不可欠であると思い始めています。　しかし，一方では栽培漁業を根付けようと一生懸命に努力をしても，片方ではその漁業を崩すかのように獲れる魚は全部獲ってしまおうと頑張っています。　私はこのような矛盾を少しは感じながら仕事をする日もあります。両者とも豊かな海を望んでいるのだから，今後は栽培漁業を少しでも理解して協力し，栽培漁業を成功させたいと思います。　私達の未来のためにも。

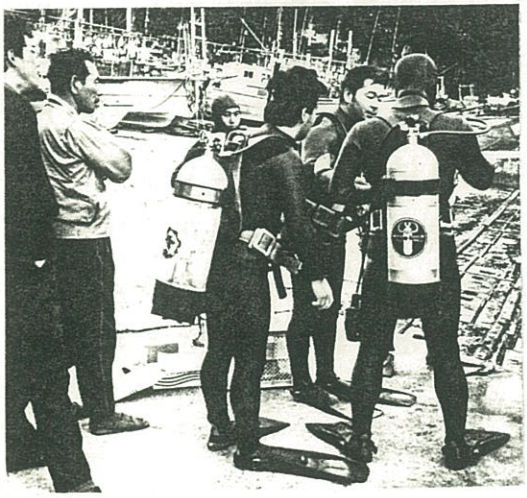
アワビの餌づくり

県内のアワビの漁場では，春から夏にかけてはワカメ等アワビの餌となる海草がありますが，それ以降は適した餌が不足していることが栽培漁業センターの調査で分かりました。このことは放流アワビの成長にも大きく影響していると思われます。　そこで，年間通じてアワビの好適な餌となるクロメ，アラメの増殖試験を行いましたが，これらは順調に成育し，今までに無かった餌の群落をつくりつつあります。　これは60年４月（泊），61年５月（青谷）に漁業者自らが取り付け作業を行ったものですが，今後種苗放流を続け，よりよい効果をあげていく方法として各地先でこのような管理作業が進められることが重要となってくるでしょう。



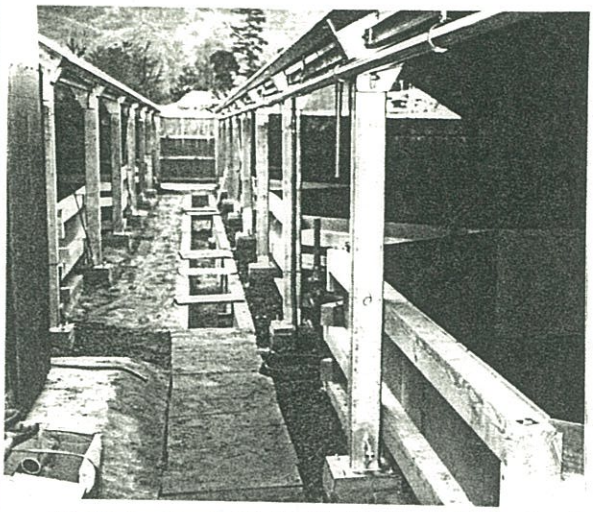
潜水講習実施

夏泊漁協



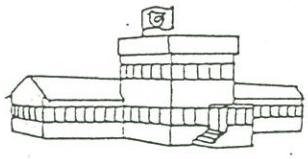
昨年11月12日，夏泊漁協研究グループがセンター職員の指導で潜水訓練を行いました。　これは他の増殖実践グループと同様，磯場の漁場管理を目的として行ったものです。　各地でこのようなグループが結成さた事は，管理漁業の意識の高まりと言えるでしょう。

ヒラメ養殖いよいよ発進！



ヒラメ養殖はマダイ，ハマチに次ぐ３番目の有用魚種として，全国的に注目され広がりつつあります。　しかし，県内では当センターで試験的規模で行われて来たにすぎず，ヒラメ養殖業者は皆無の状態でした。　本紙創刊号で紹介した東漁協所属の吉沢治美氏が，県内ヒラメ養殖業者第一号となるようです。　昨年は，当センターで４ケ月間にわたり，飼育技術等について研修を行いました。　施設の建設工事も今年７月頃の種苗の放養を目ざして急ピッチで進められ，その大部分が完成しました。今後，県内ヒラメ養殖業者の先駆者として活躍を期待します。

センター情報



種苗生産状況

アワビ　：　61年10,11月採苗分平均サイズ約３ｍｍ，５０万個波板飼育中

＊編集部から・・・・新年をむかえ「さいばいだより」も第４号を発行するに至りました。　編集部一同，より一層の努力をして，内容を充実させていきたいと考えております。　漁業者の生の声を紙面上に反映する為にも今まで以上の皆様の積極的な参加を期待しております。